

視点
View Point

新春 特別対談

エネルギー価格や原材料費の高騰、人手不足が続く、経済が回復機運に乗り切れていません。未来へ向かって長野市が継続的に発展していくには、どんな取り組みが求められているのでしょうか。2025年のスタートにあたり、荻原健司長野市長と水野雅義長野商工会議所会頭にご対談いただきました。

(対談は2024年10月31日に実施しました)

行政と商工会議所は長野経済を回す両輪 魅力あるまちづくりへ一層の連携強化を

経済に関わる課題が
浮き彫りになった1年

お二人は2024年をどう振り返りますか。

荻原 コロナ禍が明け、社会は明るさを取り戻してきましたが、事業経営をされている方はエネルギー価格や原材料費の高騰に苦しんでいます。農業でも肥料や飼料の値上がりもあり、事業者の皆様にとっては厳しい1年でありました。昨年、水野会頭との対談でも話題になった人手不足は今も続いています。また、労働者の賃上げが物価上昇に追い付いていないという状況もあり、**経済に関わるさまざまな課題が浮き彫りになった年**でした。

経済以外へ目を向けると、元日に起こった能登半島地震をはじめ、各地で地震や豪雨等による災害がありました。

明るい話題としては、北陸新幹線が3月に敦賀まで延伸し、西日本方面から長野市に訪れる方の利便性も向上しました。今後長野市の経済に大きく寄与してくれると期待しています。

水野 2月に日経平均株価が1989年の史上最高値を更新し、4万円台に到達したこともありました。これだけを見ると日本経済は良くなっているように感じますが、景況が優れているのは円安の恩恵を受けた限られた大手企業だけです。ほとんどの中小企業、地方の企業は、**事業環境が良いとは考えていません**。市長からもお話のあったように、原材料費等で増加したコストを中小企業は価格転嫁することができず、従業員の賃金を上げたくても叶わない状況です。

インバウンド需要が盛んなこともあり、観光業では持ち直しが見られるものの、やはり市長のご

努力でコスト増を吸収することはできません。そのあたりを元請けにも理解してもらう取り組みは、いろんなところで始まっています。たとえば、2024年問題による労働規制の厳格化もあり、物流にかかる費用が上がりました。しかし、十分とは言えません。また、儲かっている業界とそうでないところがばらついていきます。**全部で見られる、モノやサービスの値段を適正価格に導く動きが連鎖して産業界に一律に広がれば、賃上げにも対応できる環境が整うでしょう。**

荻原 手元の自由になるお金が限られていたら、商品は安い方がよいという消費者心理もよく理解しています。会頭がおっしゃったように、**可処分所得を増やす好循環を生み出さないといけません**。地方の自治体や経済団体のみならず、日本全体で取り組むべき課題かと思えます。

働きたい、暮らしたいと思える
長野市へ

—— まちの活性化に向けた課題と施策について聞かせてください。

荻原 このところ、中央通り周辺でマンションをはじめとした大規模開発事業が増えてきました。現在、末広町でもマンションや商業施設が入る再開発事業が進んでいます。マンションが建てば中心市街地に住む人も増えます。まちはいきものです。投資が進み、再開発が行われることは、まちにとって望ましい循環に入っていると思います。

一方で、今の日本は人口減少社会です。賑わいのある元気なまちであり続けるよう、**まちの魅力を高めることで人口を減らさないよう努めるべき**です。商工会議所でも女性に選ばれ、女性が働きやすいまちづくりを進めていただいています。

適正価格に導く動きを
産業界へ一律に

—— 現状に対してどんな対策が必要でしょう。

荻原 会頭からコスト上昇分を価格に転嫁できない中小企業が多いというお話がありました。農業経営者も同じ悩みを抱えています。長野市には果樹をはじめ、農家の皆さんが愛情を注いで育てたクオリティの高い農産物がたくさんありますが、現在の価格が適正とは思えません。製造業にしても農業にしても、コストが上昇すれば商品の

指摘通り**人手不足が深刻**です。運転手、宿泊施設の従業員を補えないために稼働率が下がるなど、見えないチャンスロスがあったと想像します。**自然災害もありましたし、経済状況が100%順調かといえば、そうとはいえず、回復の機運に乗り切れない状況だと判断します。**

価格も上昇することは当たり前であると、消費者である我々も勇気をもって受け入れたいものです。**行政としても商工会議所はじめ経済団体の皆様と一緒に、適正価格についての理解を促すよう取り組んでいく必要があるでしょう。**

また、農産物に関しては、地元で消費されれば輸送コストが安く済み、その分リーズナブルにいただけます。市内外の皆様に長野のおいしい農産物をこの長野で召し上がっていただき、また購入していただく環境をつくり、経済の好循環を創り出していくことも大切です。

人手不足については、生産性を高めるためのDX導入や、これに向けたIT人材の確保への支援を継続していきます。

水野 おっしゃる通り、**適正価格はどう導くかが重要**になってきます。発注先から価格を据え置くよう要請があった際、以前のように下請けは企業



荻原健司氏プロフィール

昭和44年生まれ。平成4年アルペールビル・オリンピック冬季競技大会スキー・ノルディック複合団体 金メダル。平成4年早稲田大学卒業後、北野建設株式会社に入社(令和元年7月退社)。平成6年リレハンメル・オリンピック冬季競技大会スキー・ノルディック複合団体金メダル。平成16年参議院議員(平成22年7月任期満了)、令和3年11月長野市長。座右の銘は「本気は本物か」。



水野雅義氏プロフィール

昭和40年生まれ。青山学院大学卒業後、ホクト株式会社に入社。平成7年常務取締役九州支店長、平成9年 専務取締役きのこ生産本部長、平成17年取締役副社長を経て、平成18年より代表取締役社長。令和4年11月より長野商工会議所会頭、長野県商工会議所連合会会長。座右の銘は「One for all, All for one」。

行政と商工会議所が連携し NAGANOを発信

—— まちの賑わいはどう創出すべきですか。

水野 次の善光寺御開帳については、2027年の開催に向けて請願をしたところです。市長が冒頭でおっしゃったように北陸新幹線の延伸も追い風になるでしょう。

一方、特別なイベントの折だけでなく平時から長野を訪れたくなるような気運を高めることも必要です。過日私は長崎スタジアムシティを視察する機会がありました。サッカースタジアムとバスケットボールのアリーナに、コンサート、ショッピング、食事や宿泊も楽しめる複合施設で、これができることで長崎のまちがガラリと変わりました。

長野市にもこのまちをホームとするスポーツチームがあり、ホームゲームがある折は相手チーム

女性に加えて進学で県外へ出た若者たちにとっても、長野には求める仕事があるという環境づくりを経済団体の皆さんと一緒に進めていきます。ただ、先日長野市の高校生、大学生に話を伺う機会がありましたが、皆さん首都圏へ働きに行きたいと言う。長野には自分の求める仕事が見つからないのです。

長野市では今、市内の学生を「長野はたらく大使」に任命し、企業訪問や採用担当者との交流活動を通じて、市内の企業で働く魅力や課題を探究し、学生独自の目線から情報発信してもらっています。若者が求めている職種や働き方とは何なのか、そういった企業が長野市にあるのか、商工会議所の皆さんと洗い出しをするところからやっていきたいです。

水野 おっしゃる通り魅力あるまちづくりが不可欠です。若者たちはまず長野にどのような企

業があるのかを知らないという課題があります。長野商工会議所では市教育委員会と連携し、企業経営者が中学校に出向いて子供たちに直接企業の話をする「ナガノの仕事・出張先生」を実施しています。こうした機会を通じて、まずは長野の企業を知ってもらい、自分にとって魅力ある職種とは何かを探ってもらえたらと願っています。今後は県などとも連携してこうした取り組みを小学校や高校へも広げ、市内企業の魅力を知る機会を提供したいと考えます。

ご紹介いただいたように、女性活躍推進事業に力を入れています。塚田副会頭を中心に、女性が働きやすい職場を目指す活動を長野市から全県へ広げるところです。フルフレックスの導入など労使の信頼関係に基づく働き方の改革にもつなげたいですね。地方にあって女性活躍できるまちであることをもっと発信していきます。

のサポーター、ブースターも足を運んでくれます。こうした機会でどんなおもてなしをするかも考えていくべきだと、長崎のまちを見て感じました。スポーツの魅力は、我々が思う以上に人を惹きつけます。まちづくりに活かさない手はありません。

荻原 2024年に国民スポーツ大会を開催した佐賀も、まちがずいぶん変わったと聞いています。会頭は長崎に行かれたとのことですが、私は青森の長根屋内スケート場YSアリーナ八戸を見てきました。スポーツ施設としてだけでなく、エンターテインメント性、社交性も備えています。競技大会がない日でもそこへ行けば、わくわくできる楽しみや交流の機会が待っており、普段から遊びに出かける家族連れやテレワークをする人で賑わっています。長野のスポーツ施設もイベントがない日でも人が集まる場所にするために、どのように施設の魅力を高めるか検討したいですね。

共働き夫婦にとって働きやすい環境づくりも重要です。たとえば託児所や保育園は都会に比べ整っておらず、働くことを控える人が現実にあります。こうした状況の是正も魅力あるまちにとって欠かせない要素ではないでしょうか。

長野市は、自然の豊かさという大きな魅力を備えています。市内企業の認知度が上がり、働きやすさが向上すれば、U・J・Iターンする人の数は増えます。リモートワークが当たり前になった今は、長野市を生活の拠点にして週1回東京へ行く働き方も進みます。そこへ向けて、行政との連携をますます強めたいとも思います。

荻原 長野市では、産業立地ビジョンを策定し、市内外の企業による投資を促すことで経済の基盤強化、持続的な発展を果たし、人を呼び込もうとしています。しかし、土地を用意するだけで人が来るわけではありません。教育や医療環境の充実等、そのまちの暮らしやすさが大きなファクターです。産業の育成と暮らしやすさがセットでなければ、長野市を選んでもらえません。

子育て支援、家庭負担軽減という側面から、これまで「中学生まで」としていた子どもの福祉医療制度の対象を2024年1月診療分から「18歳年度末まで」に拡大しました。さらに、2025年4月からは1レセプト500円の受給者負担金をなくし、子どもの医療費の窓口無料化を実施します。「こども誰でも通園制度」も本格実施に向けた試行が始まりました。今後も首都圏ですでに標準化されていることを地方都市でも当たり前にして、長野の自然の豊かさを求めて移住を考えている方の様々な環境を整えていきたいと思っています。

まちなかにスポーツもショッピングもコンサートも楽しめる集客施設を整備できたら、会頭のおっしゃる「住む人 来る人 ワクワクする街 長野」につながると思います。

また、長野の良さは適度な都市感覚だと感じています。交通網が整備され、医療機関、教育機関や自然豊かでいろいろな魅力的な観光資源があり、こんなバリエーションに富んだまちって他にはないのでは。さらに世界の人に認知されているNAGANOです。その魅力を多様な人の目線でもう一度掘り起こし、磨き、発信することが必要です。

水野 観光や移住を考える方に向けての情報発信が、商工会議所もまだまだ弱いと感じています。1年の間に行われるさまざまなイベントのPRの仕方を変えるだけでも、思いも寄らぬ注目を集めるかもしれません。

荻原 行政と商工会議所は長野市経済を回していく両輪です。時代が変われば直面する課題も変わりますが、実体経済の「現在」をご存知なのは会頭はじめ経済団体の方々です。商工会議所と行政の関係性がなければまちの元気は出てきません。生きている経済がもたらす今の課題へ機敏に対応するためにも、皆様との連携をより密にしていきたいです。

水野 今日話題に上がったように、魅力あるまちができれば人は自ずと流入し、あらゆるシーンで経済が活性化されていきます。長野のまちの魅力づくりとは何かについて、経済界にも自分なりの意見を持っている人が大勢いるはず。慣例や前例に囚われずにそうした声を幅広く拾い上げ、行政に伝えていくことが今後さらに重要であると考えています。